

たまのよこやま



- 遺跡だより
- くろがね物語
- 保存科学室こぼれ話
- 行事案内



遺跡だより ⑥8

〈港区 No.149 遺跡〉

遺跡だより

くろがね物語

保存科学室だより

港区の北端、環状第二号線新橋・虎ノ門地区再開発事業に伴う調査が、港区No.149遺跡として行われています。環状第二号線は、1946年に戦災復興院が新橋から赤坂、四谷を経て神田までの約9キロの区間について都市計画を行ったのが始まりです。新橋・虎ノ門区間については、およそ半世紀にわたり着工が凍結されましたが、1998年になってようやく道路整備とビル建設を行う市街地再開発事業として動き出しました。桜田通りと第一京浜の間（約1*0）については、本線部分が地下化されるために、埋蔵文化財の調査対象区域となりました。

江戸時代に「^{あたごした}愛宕下」と呼ばれた当地は、いわゆる「日比谷の入り江」という沖積低地で、近世以前には葦等が生茂る湿地状態であったと言われています。江戸幕府成立直後に「^{ふしん}天下普請」と称される諸大名を動員した埋立て工事がなされ、急増する武家屋敷用地として整備されました。

^{さいおう}西桜公園地点（255㎡）は、^{はたもと}大名屋敷と^{おおいしげ}旗本屋敷の境界部分にあたり、幕末期において東半は^{あおみみなくちはんかどうけ}近江水口藩加藤家（2万5千石）上屋敷、西半は^{ごしよんぼんいしのけ}御書院番石野家（1100石）敷地でした。屋敷境の石垣溝、樽地業と呼ばれる特殊な建物基礎などが検出されています。

西新橋二丁目29番地点（820㎡）も、大名屋敷と旗本屋敷の境界部分で、幕末期において北半は^{ひごうとほん}肥後宇土藩^{ほそかわけ}細川家（3万石）中屋敷、^{おこしょうくみおおしまけ}御小姓組大嶋家（1600石）敷地、南半は一橋家家老土岐家（2500石）敷地でした。幼児骨を納めた火消壺、密教儀礼に伴う方形土坑などが検出されました。方形土坑からは、^{はっけ}八卦・^{ごぎょう}五行・^{ごしき}五色・^{ほんじ}梵字・^{じゅく}呪句を記した呪符木簡、かわらけが集中して出土しています。

新橋四丁目28・29番地点（465㎡）は、^{みちのくいちのせきはんたむらけ}陸奥一関藩田村家（3万石）上屋敷にあたります。長楕円の土坑を地中で連結して構築した^{じょうすいひ}上水樋、内容物が残る^{えなざら}胞衣皿などが検出されています。

今後も事業予定地内である程度の面積が確保された区域について、順次発掘調査に入る予定です。

（五十嵐 彰副主任調査研究員）



西桜公園地点検出遺構



胞衣出土状態

調査研究資料室だより

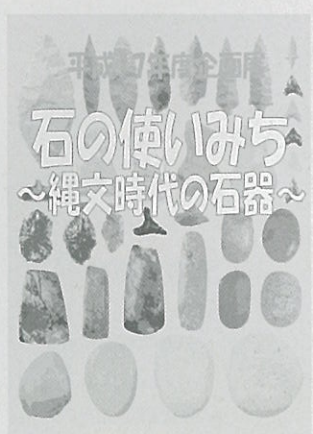
平成16年度の行事・催し物の参加者は2,500名を超す盛況ぶりでした。平成17年度は『石の使いみち』をテーマに縄文時代の石器を用途ごとに分かりやすく説明し、展示しております。

また、常設展示のコーナーでは、尾張藩上屋敷跡遺跡で発見された陶磁器類を時期ごとに分かりやすく展示しましたので、是非ご覧下さい。

今年度もこれらの展示に関連した行事・催し物を行いますので、皆様の参加をお待ちしております。



文化財講演会



くろがね物語 - 四 -

古代の工具 <上>

今回は、遺跡から出土する代表的な工具二例について紹介します。

一つは刀子です。刀子は現代のナイフに似た形をしていて、片方に刃がつけられています。おもに、モノを削る道具として使用されました。役所では文書はもっぱら木の札（木簡）に筆で書くため、書き損じたときは、表面を刀子で削りとって修正しました。役人を『刀筆の吏』（とうひつりのり）と称した理由がここにあります。

庶民生活でも不可欠の道具であつたらしく、村落から出土する鉄器の50%ちかくを占めています。中には、刃が極端に短くなるまでだいに使われたものもあります。

もう一つは鉄斧です。本体の基部には、柄を装着するためのソケット状の切込みや折返しがあります。基部断面の形から、丸い柄や四角い柄が付けられたことがわかります。もともと斧は木を伐採する道具ですが、木の皮を剥いたり、削る機能も有しています。おそらく大きさや重さによって、用途が異なっていたのでしょう。刃に対して柄が平行に付く横斧は伐木用、柄が直角に付く縦斧は手斧（鉞）として使用されたと推定されます。後者には比較的小形のものが用いられ、各作業に適応した形態の斧が選ばれたと想像されます。（松崎元樹主任調査研究員）



遺跡だより

くろがね物語

保存科学室「ほれ話」

保存科学室こぼれ話 (25)

赤色顔料のベンガラについて

今回は青森県今別町赤根沢が産地とされるベンガラを紹介합니다。

この赤根沢のベンガラは、江戸時代には日光東照宮など神社、仏閣の塗料として大量に使われ、又顔料（化粧原料）としても使用された非常に良質な酸化第二鉄のベンガラといえます。

それでは、このベンガラの母材は何かということで、岩手県立博物館赤沼英男氏の「三内丸山遺跡における赤色塗彩材料の使用状況について」の分析結果をみますと、三内丸山遺跡では、パイプ状物質が母材のものと、赤色物質魂（赤鉄鉱を含有する赤色チャート）の2種類が報告されています。

赤根沢のベンガラは、後者の赤色物質魂に該当し、周辺遺跡の赤色顔料の分析結果から縄文時代前期から使用されていることが報告されています。さらに赤根沢の特徴は、赤鉄鉱と赤色チャートが入り混じって風化が進み泥質岩の状態であり、非常に採掘し易い状態で粉碎する作業も容易であったことが推察されます。また、今まで縄文時代から古墳時代まで容器に保管されたベンガラは、パイプ状物質であると報告していますが、パイプ状物質と同様に縄文土器に保管されている例は、この赤根沢のベンガラを加えた2種類だけといえます。なお、赤根沢は総称して「赤根沢の赤岩」と呼ばれ、全国的にも例が少ないことで青森県天然記念物に指定されています。

（上條朝宏主任調査研究員）



赤根沢の赤岩



赤岩の採掘跡



鉱脈のある海岸

遺跡だより

くろがね物語

保存科学室「ほれ話」

平成17年度 広報・普及事業のご案内

行事名	対象	日	時	備考
文化財講演会	一般 120名	① 6/11 (土) ② 7/13 (水) ③ 9/14 (水) ④ 9/28 (水) ⑤ 10/15 (土) ⑥ 12/10 (土)	14:00~16:00	無料
夏休み考古学相談室	小・中学生	7/21 (木)~8/26 (金)	10:00~12:00 13:00~16:00	無料
発掘調査発表会	一般 120名	① 4/30 (土) ② 10/22 (土)	13:00~16:00	無料
文化財講座	一般 120名	① 11/2 (水) ② 11/9 (水) ③ 11/16 (水)	14:00~16:00	無料
展示説明会	参加自由	① 4/9 (土) ② 1/14 (土)	午前の部 10:00~ 午後の部 13:30~	無料 1時間程度
縄文土器作り教室	①②各 親子：20組	制作① 8/18 (木) ② 8/19 (金)	9:30~16:00	往復はがきで申込み 締切り： 8/10 (水) 参加費 700円
		野焼き ①②合同 9/10 (土)	9:30~15:30	
貝輪作り教室	②一般：15名 ①③④各 親子：20組	① 6/25 (土) ② 6/25 (土) ③ 7/29 (金) ④ 7/30 (土)	9:30~12:00	往復はがきで申込み 締切り： ①② 6/14 (火) ③④ 7/12 (火) 参加費 300円
編布(あんぎん)作り教室	③④⑪⑭⑯各 一般：15名	③④ 5/28 (土) ⑪ 10/29 (土) ⑭⑯ 11/26 (土)	③⑭ 10:00~12:00 ④⑪⑯ 13:30~15:30	往復はがきで申込み 締切り： ①~④ 5/10 (火) ⑤~⑧ 7/12 (火) ⑨ 8/10 (水) ⑩・⑪ 10/12 (水) ⑫~⑮ 11/10 (木) 参加費 300円
	①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩ ⑫⑬各親子：20組	①② 5/28 (土) ⑤⑥ 7/22 (金) ⑦⑧ 7/23 (土) ⑨ 8/27 (土) ⑩ 10/29 (土) ⑫⑬ 11/26 (土)	①⑤⑦⑫ 10:00~12:00 ②⑥⑧⑨⑩⑬ 13:30~15:30	
勾玉作り教室	②・⑦各 一般：15名	② 6/25 (土) ⑦ 10/29 (土)	⑤⑥⑦ 9:30~12:00 ①~④ 13:30~16:00	往復はがきで申込み 締切り： ①② 6/14 (火) ③④ 7/12 (火) ⑤ 8/10 (水) ⑥⑦ 10/12 (水) 参加費 400円
	①・③~⑥各 親子：20組	① 6/25 (土) ③ 7/29 (金) ④ 7/30 (土) ⑤ 8/27 (土) ⑥ 10/29 (土)		
考古学実習 (拵合・復元・拓本など)	小・中学生：20名	① 8/8 (月)	10:00~16:00	往復はがきで申込み 締切り： ① 7/20 (水) ② 10/12 (水) 参加費 500円
	一般：20名	② 10/28 (金)		

表紙の写真解説 - 府中市宮町一丁目武蔵国府関連遺跡

この遺跡は、京王線府中駅から新宿方面に約300m行った場所にあります。昨年、小金井街道の拡幅工事に伴い約500㎡を調査しました。発掘調査では、写真にあるような竪穴式の建物(住居)跡や方形の柱穴を有する大きめの掘立柱建物跡(二間×三間)などが高い密度で検出されました。これらの遺構からは、古代の土器や瓦、金属製品が出土しました。左下は鉄の斧で、おそらく手斧として使用されたものです。右下は奈良時代の須恵器坏で、蓋に環状のつまみがつく特徴的な土器です。このほか、役人が身に着けていた帯の部品や刀子なども見つかりました。

最近、ここから南西400mの地点(大國魂神社の北東側)より、古代武蔵国府の政庁跡と推定される大規模な遺構が見つかりました。いよいよ、謎とされていた国府の実態が明らかになりつつあります。

今後、国府に近接する本遺跡の性格に関しては、さまざまな視点から検討しなければなりません。掘立柱建物跡の配置状況からすると、あるいは国府の役人の宅地であったかもしれません。この宮町地区の発掘調査は、平成17年度も継続して実施する予定です。
(松崎元樹主任調査研究員)

